

平成27年度学校評価

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
教育研究の充実と教育課程編成による授業改善を目指す。 〈「自立と社会参加」を目指す教育課程・学習指導・授業の改善〉	<p>① これまでの教育研究の成果を基に、小中高の一貫性（つながり）について研究をさらに進め、教育課程の内容精選と構造化をすすめる。</p> <p>② 研究活動等を通して、授業改善とその般化を目指した授業実践及びその検証を行う。</p> <p>③ 研究活動のプロセスをまとめるとともに、研究成果の発信や情報共有の充実を図る。</p> <p>④ ICT を活用した授業の研究と授業実践を進める。</p>	<p>① 教育研究の取組みを通して、教育課程の内容精選と構造化が進められたか。</p> <p>② 授業研究及びその検証を行うことで授業改善とその般化が進められたか。</p> <p>③ 研究活動のプロセスをまとめ、情報発信と共有の充実が図れたか。</p> <p>④ ICT を活用した授業実践が行われたか。</p>	<p>① 各学部における教育活動の目標の整理と、学部をつなぐの検証を進めた。各学部の個別教育計画の中から具体的な教育内容を出し合っって班で整理を行っているが、見直しには、更に検討が必要。毎月の教育研究を利用して、各学部で研究を進めたが、小中高の一貫性については検討が十分ではなかった。</p> <p>② 「学習活動研究会」に向けて指導略案を整理し、評価の欄を加えることで、授業改善をめざした。</p> <p>③ 「神知研発表大会」において高等部の授業「職業」の実践、分教室のデュアルシステム実践と ICT 活用の取組みについて発表した。</p> <p>④ 分教室においてはコミュニケーションの補助手段として成果があった。自己の意見を他者に伝えるプレゼンテーション学習などで活用し生徒の自信を培う実践ができた。高等部では学習効果が期待できる機材を有効活用するためには教員のスキルアップに課題がある。</p>	<p>① 教育内容については引き続き整理していく。小中高のつながりと教育課程の内容は継続して検討に取り組む。学部間の研究の情報共有を更に進め、小中高の一貫性、連続性を検討していく。</p> <p>② 引き続き授業研究を進め、授業改善に努める。</p> <p>③ 研究活動がさらに充実するように、授業内容・実践と研究の関連を強化する。</p> <p>④ ICT を活用した授業の研究と授業実践を更に進める。ICT を活用した授業の研究と授業実践の推進を継続する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自力登校＝社会自立」への支援が良い。社会にどれだけ、生徒への理解をしていただくためにも必要。生徒たちがどのように誰に助けを求めていく力をつける事が出来る。 ・進路の見学で行っている活動を職業に取り入れたいしないと社会参加ではないのでは。 ・自立に向けて外での活動は少ない。 <p>(関係機関)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加に向けて一貫して取り組んでいる。 <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場の先生はこちら(保護者)の話を熱心に聞いて、すぐに対応を心がけている。 ・学年が上がる程個性が必要。一人ひとりの苦手な点、社会に出た時に必要な学習内容を見直し、繰り返し行うのが大切。 ・世の中は動いているので、もっと先を見てほしい。 ・分教室のレベルが格段によくなっている。指導がよい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部において教育研究と教育内容の改善についての検討を進めた。小中高の一貫性については十分な検討には至らなかった。次年度継続して検討を進める必要がある。今年度は各学部の教育活動「運営要綱」を再整備した。次年度は教育内容のさらなる改善と一貫性、系統性の構築を進めていく。 ・「神知研」発表、「学習活動研究会」開催を通じて、授業研究、授業改善を進めることができた。研究成果の授業への般化について今後も課題としていく必要がある。分教室においては ICT を活用した授業実践を積み重ね、一定の指導成果を得ることができた。 ・保護者への情報提供については課題が残る。 ・各学部の授業、その他の場面で ICT を活用した。特に分教室において大きな成果を上げることができた。教員のスキル向上と活用方法の研究・検討が今後の課題。
「個別の支援計画」及び「個別教育計画」に基づく個々の児童・生徒に応じた支援、指導の充実を図る。 〈児童生徒指導・支援〉	<p>① 本人、保護者、学級担任、関係職員及び関係機関等のチームによる「個別の支援計画」の作成会議を改善・充実する。(小1、小4、中1、高1)</p>	<p>① 作成会議の方法・内容の改善・充実が図られたか。</p>	<p>① 小1 小4、中1において改善・充実を図りつつ「個別の支援計画」を作成し「個別教育計画」に反映することができた。</p>	<p>① 「個別の支援計画」の作成会議の改善・充実化を更に推進する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その時その時で必要と思われる取り組みをきちんとご提案いただけありがたい。 ・教育計画、支援計画はしっかり立てられているが、「評価→反省→次への実施計画」という流れが十分ではない。 ・とても時間をかけて面談している。 ・日々のコミュニケーションが不足している。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別教育計画」の作成、実施、評価については各学部で共通理解を図りつつ、指導・支援を進めることができた。 ・「個別教育計画」に基づく学部間のつながりについて更に検討を進める必要がある。 ・「個別教育計画」書式の検討は今後の課題。

	② 学部間のつながり及び目標と指導の関連が明確となる作成の手引きを活用し「個別教育計画」の検討と改善を図る。	② 学部間のつながりを意識した「個別教育計画」の検討・改善を図ることができたか。	② 個別教育計画の作成から評価まで、学部内では共通理解をしながら進めることができた。チェック体制についても各学部の中ではできている。学校全体としてのチェックについて、今後、検討する必要がある。	② 個別教育計画の書式について、今後とも必要に応じて検討し、学部間で可能な限り共通化を図る。		・「個別教育計画」についての保護者との綿密な連携と丁寧かつ十分な説明について更に検討・工夫をする必要がある。
個々の児童・生徒の能力・適性に応じたキャリア教育（職業教育及び進路指導を含む）の充実と就労の促進をすすめる。 〈キャリア教育・進路指導〉	① 小学部から高等部までの自立と社会参加に向けた一貫した教育課程の検証・改善に取り組む。 ② 分教室におけるデュアルシステムを改善・充実する。 ③ 本校におけるキャリア教育の推進・充実を図るためにICT等の活用や体験活動を通じてキャリア発達を支援する。 ④ 本校と分教室との連携・協働による進路指導の充実を図る。	① 教育課程検討委員会等で検証・改善が行われたか。 ② デュアルシステムの改善・充実が図られたか ③ キャリア教育の推進・充実が図られたか。 ④ 本校・分教室の連携・協働による進路指導の充実が図られたか。	① 教育課程検討委員会、各学部内の会議等において検討・改善を進めた。 ② 地域や社会の資源を活用して、生徒が自己の課題に気づき、目標を持って課題解決をしようとする姿が見られるようになった。また、現場実習においても職業での学びが生かされた。 ③ 分教室において外部講師による授業、近隣事業所の見学や清掃技能検定を通し生徒自身が具体的なイメージを持ち、目標に向けた活動や、体験ができた。小学部、中学部、高等部におけるキャリア教育は更に検討が必要。 ④ 月1回以上の進路専門連絡会を実施し、Sagamiデータに分教室との連絡専用フォルダを設けることで、データと電話の情報共有が円滑になった。まだ、本校との連携が十分ではない部分もあるため今後も継続して取り組む必要がある。	① 引き続き、「自立と社会参加」に向けた各学部の取り組みの検討を進め、学校全体での共有を図る必要がある。 ② 次年度もデュアルシステムの実践を行い、生徒の気づきを支援する具体的手立てや個々の目標を個別教育計画に反映させて、生徒自らが目標を意識して取り組めるようにする。 ③ キャリア教育の推進・充実化を更に検討していく。 ④ 卒業後の生活について、説明会を実施するにあたり、本校と分教室での協同開催に向けて運営について協議していく。情報共有したデータ、進路関係の書式と起案の流れを整理していく。	(保護者) ・小学部なので中・高のことがわからない。 ・中学部を見ていると全体的にも、自立と社会参加、すべてのことに力がつく活動をしている。 ・先生方の努力を感じる。実習などに取り組む時、本人の意欲増進をするような声かけが大切 だと思う。そのことで実習期間を乗り越えられると思う。 ・「個別教育計画」に基づいた指導が十分だといえない。	(学校評価) ・各学部においてキャリア教育に関する授業を実践されたが、学部間の情報交換と系統性、発展性の整理は課題である。また、「個別教育計画」とキャリア教育の関連性の検討と、全学部の保護者への情報提供、説明についても課題である。 ・各学部において教育課程の改善、検討を進めつつ、地域社会の教育資源活用を進めることができた。特に分教室においては、より実際の「職業」の授業を中心に、指導成果を得ることができた。 ・本校・分教室の進路指導・支援の連携を図り、情報の共有と進路開拓を進めることができた。
地域の特別支援教育センターとしての支援機能の充実を図る。 〈地域のセンター的機能〉	① 地域の幼・保・小・中・高等学校への相談・支援のさらなる充実を図る。 ② 地域の小・中・高・大学等との「交流及び共同学習」について各学部の取り組みの整理と充実を図る。	① 相談・支援が適切に行われ、地域の学校等の支援教育の理解・取組みが進んだか。 ② 「交流及び共同学習」の研究により地域の小・中学校等及び本校の教育活動の改善が見られたか。	① 各校種のコーディネーターに、支援や関わり方の方法を伝え、ケースに応じた関係機関連携を紹介する等、具体的な対策について助言するよう努めた。 ② 全学部を対象に、相模女子大との交流会を実施した。学生には障害の理解を図り、児童生徒には、社会性の広がりにも成果を得ることができた。	① 継続的に、適切かつ密な関係機関との連携に努める。 ② より有意義で安全な学習機会とするために課題の整理と改善の検討が必要。	(保護者) ・地域の小学校在学中は何回も助けて頂き、とても難かった。 ・地域小学校等に何をしているのかわからない。 (関係機関) ・今後も市域の支援教育の拠点として開かれた学校運営をお願いしたい。	(学校評価) ・担当区域の幼稚園、小学校、中学校、への支援を実施し、関係機関との連携の充実化を図ることができた。 ・地域支援の状況について保護者への情報提供が今後必要である。 ・幼稚園、小学校、高校、大学との交流、共同学習を展開することができた。本校と相手校の双方に有意義な授業を実施することができた。 ・生徒の安全な通学への支援として、地域の見守りボランティアの協力を得ることができた。

	<p>③ 学校支援ボランティアや余暇活動支援事業等に係るボランティアの積極的な活用をすすめる。</p> <p>④ 本校の教育実践（教育課程）を積極的に発信し、地域の学校や関係機関の理解を促進する。</p>	<p>③ ボランティアを積極的に活用できたか。</p> <p>④ 教育実践の積極的な発信により、理解促進が図られたか。</p>	<p>小学部では麻溝小学校との交流において、小学校と協働で検討を重ね、児童同士がお互いに関わろうとする様子がみられるようになってきた。</p> <p>③ 授業支援、登下校見守り支援、相模女子大との交流行事を併せ、約名のボランティアを動員し、児童生徒と関わっていただき、人との関わり方と社会性を広げるために活用できた。</p> <p>④ 学習活動研究会を行い、地域に研究活動を発信することができた</p>	<p>③ 行事が行われなかったため、次年度の人員確保が心配される。授業支援の人材は、地域の教育力の掘り起こしと共に、連動して進める必要がある。</p> <p>④ 次年度も引き続き研究会を行う。</p>		
<p>職場研修（OJT）や校内研修会の充実による人材育成・人材開発を行う。 〈学校運営・学校管理〉</p>	<p>① 職場研修（OJT）の研修体系（各年次研修等）及び研修プログラム（ミニ研修会等）の更なる充実を図る。</p> <p>② 校内人材バンク等を活用した人材育成・人材開発の推進を図る</p> <p>③ 具体的指導スキルや理論に関する職員研修（授業作り、コミュニケーション、日常生活の指導）を企画・実施する。</p> <p>④ 不祥事防止の徹底。</p> <p>⑤ 児童・生徒の人権に配慮した指導体制の徹底。</p>	<p>① 体系化された研修及び研修プログラムが充実し、適切に実施できたか。</p> <p>② 校内人材バンク等を活用し、教職員相互に研鑽しながら専門性の向上が見られたか。</p> <p>③ 職員研修を企画・実施できたか。</p> <p>④ 不祥事防止の徹底を図ることができたか。</p> <p>⑤ 児童・生徒の人権に配慮した指導体制の徹底を図ることができたか。</p>	<p>① 研修会を11回行い、個別教育計画、修学奨励費、健康管理等、充実した内容になった。</p> <p>② 人材バンクを活用した研修会を5回実施し、参加者のニーズに応じた研修会を実施できた。</p> <p>③ 高等部では教科会について、職業が7回、各教科を6回実施した。職業については、統一した生徒の指導方法についての検討・確認ができた。人権研修会、夏期公開研修を通して子どもの虐待の実態や、関係機関との連携の重要性について研修した。</p> <p>④ 不祥事防止会議を毎月定例として実施し、また適時不祥事防止への注意喚起を行い、防止の徹底を図った。</p> <p>⑤ 「生活指導の手引き」を作成し、人権に配慮した生活指導について、共通理解をはかった。人権研修会を実施。虐待の実態と関係機関との連携について研修し、教員の役割と指導・支援への意識を高めることができた。</p>	<p>① より多くの職員に参加を呼びかけ、全職員で学び合える機会へと発展させることが課題。</p> <p>② 研修テーマの設定は、教育研究班と連携して検討する。人材バンクにおいては専門性のある人材の確保が課題である。</p> <p>③ 高等部では教科会については、回数、内容について充実化を図る必要がある。児童・生徒の人権尊重への意識向上を図ることができた。</p> <p>④ 次年度も継続して取り組む。</p> <p>⑤ 「生活指導の手引き」にもとづいて、生活指導の目標を周知して、共通した指導・支援を進める。児童・生徒の人権尊重への意識向上を更に推し進める。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達にはなされていると思うが、保護者への周知が不足しているように感じる。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 初転任者一般研修、研修会において教育活動を中心に多分野にわたり研修会を開催することができた。 高等部では教科会において、各授業の内容指導方法、授業計画の検討を進めることができた。教科会のあり方、頻度と内容については更に検討が必要。 職員会議日に不祥事防止会議を実施し、事故防止を図ることができた。不祥事防止の徹底化を更に図っていく取り組みは今後必要。 研修等を通して組織全体で人権尊重意識の向上を更に図っていく。 従来とは異なる教育的ニーズへの対応として、「生徒指導の手引き」の検討を進めた。

<p>信頼関係と連携・協働関係の構築による開かれた学校づくりの推進を図る。 〈学校運営・学校管理〉</p>	<p>① 保護者、地域関係機関及び地域行事等への学校の人的・物的教育資源を積極的に提供し、交流活動が進んだか。</p> <p>② 地域貢献活動が推進されたか。</p> <p>③ 保護者、地域関係機関等への積極的な情報発信と情報公開を行う。</p> <p>④ 「相模原養護学校後援会（仮称）」設立に向けた組織作りと内容の検討を行う。</p> <p>⑤ 防災対策の整備と危機管理体制の確立。</p>	<p>① 学校の人的・物的教育資源を積極的に提供し、交流活動が進んだか。</p> <p>② 地域貢献活動が推進されたか。</p> <p>③ 積極的な情報発信と情報公開が行われたか。</p> <p>④ 地域資源や人材を積極的に活用しながら、「後援会（仮称）」設立に向けた組織作りに取り組めたか。</p> <p>⑤ 防災対策の整備と危機管理体制の確立を図ることができたか。</p>	<p>① 地域からの相談に対して、相談の主訴を明確にとらえるように努め、ブロック内専門職とも連携し、巡回相談を実施した。</p> <p>② 高等部「職業」等、授業の一環として学校近隣の清掃活動を行った。地域住民・職員対象とした防災備品訓練を実施した。</p> <p>③ 地域を対象とした学校見学会を実施し、延べ30名の参加者に養護学校の教育と取り組み、課題について理解を得た</p> <p>④ 後援会員の人選を行い、継続相談中である。</p> <p>⑤ 防災倉庫を整備し、備蓄食料を正確に管理できる保管方法にした。配慮食者用の防災食を整備した。防災倉庫を増やすことで、物品運搬できる通路スペースを確保した。防災常備薬の保管場所を変更し、保管・持ち出し体制を整備した。</p>	<p>① 相談の流れをスムーズにできるように、統一した書式を工夫が必要。</p> <p>② 次年度においても教育活動を通じて地域貢献活動を推進する。</p> <p>③ 次年度も継続の方向で検討していく。</p> <p>④ 次年度も継続して取り組んでいく。</p> <p>⑤ 防災食の内容の見直し 配慮食用の目印（ビブス） 防災毛布等の保管場所の検討などを取り組みたい。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方をみていると、毎日、心をうたれる。子供の成長や将来のためにたくさん活動をしている。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部の「職業」の授業において近隣の清掃活動等、地域貢献活動を行った。 ・特別支援学校への理解を得るために地域の方を対象とした学校見学会を実施した。後援会設立への検討は継続。 ・防災倉庫の整備を進めた。災害時に備えた整備をさらに進める必要がある。
<p>校務運営・管理の効率化と快適で安全・健康な学校生活を支える教育環境の整備をすすめる。 〈学校運営・学校管理〉</p>	<p>① 機動性・即時性のある学校運営組織の再構築及び運営体制の再整備による校務運営や校務グループ業務の効率化を図る。</p> <p>② 総括教諭、班長等の機能や責任の明確化及び権限の委譲による意思形成・決定の適正化を図る。</p> <p>③ 学部やグループ業務の連絡・周知のツールとして校内 Web の更なる有効活用を目指す。</p> <p>④ 校内の環境整備及び構造化の推進を図る。</p>	<p>①② 総括教諭、班長等が主体的に役割を發揮し、校務を効率的に運営することができたか。</p> <p>③ 校内 Web の有効活用とセキュリティの周知・徹底が図られたか。</p> <p>④ 環境整備と構造化が進んだか。</p>	<p>①② グループ会議で各班の取り組みや、課題を確認し、関係機関との連携を密にしながら、業務を遂行できた。</p> <p>総括教諭、班長を中心に効率化を図りつつ業務を遂行した。グループリーダー連絡会議において各部署間の連絡・調整を密に行った。</p> <p>③ 情報機器の利用は校内 Web により円滑に調整することができた。また、連絡や職員会議で活用することができた。夏期に重要情報の適正な管理及び秘文キーの使用研修を行った。</p> <p>④ 生徒用図書は生徒が利用しやすいように色別による整理を行った。</p>	<p>①② 通常のグループ会議以外の情報共有の時間を確保していきたい。</p> <p>次年度においても業務の効率化と運営体制の整備について検討を更に進める。</p> <p>③ NetCommons の利用は今年度までとなっており、来年度以降 Office365 を利用することになる。校内 Web の有効的な運用を提案する。またファイル等の適正な管理については職員に徹底を図る。</p> <p>④ 安全面、効果的な学習環境の両面から環境整備の重要性について全職員の共通理解を更に図り、安全かつ安心して学校生活を送れる環境整備を進める必要がある。</p>		<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループリーダー連絡会議において、各部署との連携、協議を進めた。 ・次年度にも向けて業務の移管、整理検討を行った。 ・各部署の運営要綱を整備した。効率化への検討は今後も進める必要がある。 ・校内 Web の有効活用とセキュリティの周知が図られた。 ・校内の環境整備については、老朽化問題の検討と併せて進めていく必要がある。 ・分教室での DIG の実施。本校舎での防災訓練、シェイクアウト訓練、防災給食等を通して防災教育を推進した。 ・私費会計について、より適切な会計処理へ改善を行った。今年度の改善点と現状課題を整理し、会計マニュアルを整備していく。

<p>⑤ 防災教育、児童生徒指導、安全指導、給食・食育指導及び保健指導が円滑に進められるように、各学部と校務グループの連携・協働を図る。</p> <p>⑥ 通学支援ボランティア等の活用を通じて登校下校時の児童・生徒の安全確保と登下校指導の充実を図る。</p> <p>⑦ 私費会計基準及び会計事務マニュアルの見直しに取り組み、会計処理の効率化・透明化及び事故防止の徹底を図る。</p> <p>⑧ 実効性のある防災体制作り及び福祉避難所体制作りを目指し防災マニュアルの改訂に取り組むとともに地域との防災訓練等を通して、相互の役割の明確化を進める。</p>	<p>⑤ 各学部、校務グループの連携・協働により防災教育、児童生徒指導、安全指導、給食・食育指導、保健指導を円滑に進めることができたか。</p> <p>⑥ 通学支援ボランティアと協働による児童・生徒が安全に登下校できたか。</p> <p>⑦ 私費会計基準に則した適正な会計処理及び事故防止が徹底されたか。</p> <p>⑧ 防災対策・体制づくり及び避難所体制整備・地域防災訓練への参加が進んだか。</p>	<p>⑤ 分教室では防災センターの見学、DIG の実施など様々な場面で、防災教育に取り組んだ。本校ではシェイクアウト訓練を月に1回程度行い、災害行動がとれるようになった。また、防災訓練学習を行い、起震車体験、給食・食育指導と連携して防災給食を実施した。アレルギーに関する研修会、救急法講習会、応急処置法講習会を実施して、安全と健康に対する知識、緊急時の対応力の向上につとめることができた。</p> <p>⑥ 毎週月・火の日程調整を行い、多くの方から支援をいただき、安全な登下校に支援をいただいた。</p> <p>⑦ 従前の会計事務をより適切な処理へ変更した。マニュアルの見直しは今後の課題。</p> <p>⑧ 防災マニュアルのダイジェスト版を職員に配布し周知徹底を図れた。年3回の避難訓練を防災マニュアルに沿った内容で実施できた。次年度のマニュアルの見直しを年度末に行うことで4月よりマニュアルを運用できるようにした。福祉避難所体制作りを、相模原市の県立特別支援学校3校および相模原市と協力して行った。</p>	<p>⑤ 分教室では校外外学習の中に位置づけ、年間計画に基づいて防災教育が実施できるように計画を進める。本校ではシェイクアウト訓練や防災給食は次年度以降も継続。今後も更なる安全と健康に対する知識、緊急時対応力の向上を図る。</p> <p>⑥ 今後も地域に向けて学校への理解を広げるための取り組みを検討し、多方面での支援を得られるようにしていく。</p> <p>⑦ マニュアルの見直しとマニュアルに準じた会計処理を行う。</p> <p>⑧ 4月よりマニュアルを運用する。福祉避難所の体制作りについては継続して相模原市内にある津久井養護学校、相模原中央支援学校、本校の3校で協議していく。</p>			
---	--	---	--	--	--	--